世田谷村日記

石山修武

三月十一日

朝、久し振りに安藤忠雄さんに頼み事の電話をする。相変らず、即断即決の人であった。九時、杏林病院、ここも久し振りで、私の方も少し病院アレルギーは薄くなったようだ。もう空気は春だ。

今年は四月から半年間私の大学での仕事は休みを取る事が決まっている。この半年間の休みは上手に使いたい。先ず四月に二週間程の完全休養を取る事を決心する。医者からも仙人みたいな生活をしばらくしなさいと忠告された。確かに、不規則の極みの如き状態が続いているからなあ。昼食は新宿で鯖みそ煮込みとみそ汁の定食。五反田のコーヒーショップでコーヒーを飲んで三〇分程の時間をつぶしている。十四時ＴＯＣトモコーポレーション。十七時過迄打合わせ。十八時大学近くで中川先生他と打合わせ。十九時に予定していた打合わせは急にキャンセルされ、フッと空白の時間が出現。二十二時過早めに世田谷村に戻る。

三月十四日　日曜日

ＡＮＡ一二七便で沖縄に飛んでいる。只今十四時十五分、先程十八番ゲート待合ロビーでベルリンからワークショップ参加のＪ・グライター教授と再会。明日からの沖縄北部大宜味村でのワークショップの一週間の時間は大事にしないと。考えられるだけ、考えて、体は休ませるだけ、休ませよう。

羽田空港内の書店で本を三冊購入。「熊から王へ」中沢新一、「おたくの精神史」大塚英志、「神の誕生」中沢新一。中沢の本が多いのは沖縄ぶながやの森での一週間と関連しているとの予感があるからだろう。キルティプールでのワークショップで、もっとスケッチをしていれば良かったと今頃考えている。プノンペンでも上海でもワイマールでも、ロクなスケッチ（エスキス）を残していない。一週間でどれ程のエスキス、スケッチが残せるか、静かに覚悟している。十五時十分、飛行機は降下開始している。那覇空港着は十五時三十五分の予定。那覇に着いて、グライターに首里城近くの尚家の王稜を案内する。明日は尚弘子先生に会うのだから当然である。遅い昼食というか、早い夕食を真嘉比の田そばで、これはおいしかった。空港に戻り、国際線待合室で上海から来るＣＹを待つ。十九時三〇分ＣＹと再会、車で名護へ。名護のホテルへ。二〇時半過ぎホテル着。ホテル内レストランで夕食を共にする。談論風発。しかし、世界中閉塞しているのがしれる。上海も見かけはともかく、大変なようだ。農村部と都市のあまりのギャップは近い将来の中国を揺り動かすのではないか。二十二時過部屋に戻り、室内原稿を書く。明日のレクチャーの筋道を再チェック。

三月十五日

六時半起床。七時ホテルレストランで李祖原、グライターと食事。七時半ホテル発。八時過大宜味村農村環境改善センター着。八時半ワークショップ参加者六〇名程にガイダンス。九時石山レクチャー。予定を少しオーバー。十時半過尚弘子先生レクチャー。十二時修了。十二時半前迄質疑応答。昼食は公民館一Ｆのピロティで皆と。簡素だが仲々美味な食事である。食事後作業に入る。大宜味村内の古い墓場など見学した後、十八時半頃夕食。公民館

一Ｆで。十九時半過、クリティーク及びチーム編成作業。二十三時過名護のホテルに戻る。
　今日は夕暮れ近く、村内を一人で散歩して、スケッチできたのが良かった。参加者中、何人かの年を経た人間の発表が良かった。彼等に期待しよう。西岡が役に立ちそうでひとまず安心した。彼女には今回少しばかり過剰な課題を負わせてみよう。今が成長期だな。

三月十六日
　七時過起床。七時半ロビー。鈴木博之先生と会う。少し太ったな。こっちはやせ細るばかりなので、うらやましい。李祖原、グライターと共に朝食。周りは昨日同様異様な和服姿のオバさん一連隊で、何か落ち着かない。着物着付スクールの卒業旅行か、和服セールスマン養成研修なんだろうか。野本運転の車で大宜味へ。野本は連日のドライバーでかなり疲れ気味のようだ。あれで結構気を使っているのであろう。九時定刻通り鈴木博之先生レクチャー。共同体会所について。いつもの様に整然としたものであった。が、テーマ自体を自分の日本建築論に振り向けて話した趣あり。楼閣、茶席といった異化された空間の系譜について語ったが、寝殿、政所の正統日本建築の系譜との差異の発生がもう少し知りたかった。が、それはぜいたくというモノだ。十時半了。二講目は昨夜の続きの設計作業のチーム作り作業にあてた。十二時公民館の一Ｆピロティで昼食。今日も風が柔らかく気持が良い。「オイ、これは高山建築学校だぜ」と鈴木博之に言われてビックリしてしまった。そうだとしたら、かなり困った事なのだ。高山学校主倉田康男の自己満足への自閉が乗り移っているように視えたのだろうか。暮々も用心しなくては。ワークショップ独自のプロジェクトを案出できなくては、何も言えないのだけれど。色々と参加者に指示していたら、再び鈴木博之からこれは典型的なゲリラ戦だと指適されてしまった。そうか、私のワーク・ショップは昔懐かしのゲリラの如くに鈴木の眼には写っているのか。六〇才のゲリラはキツイな。マア、言われてみれば、確かにこれはゲリラ戦のようなものだな。鈴木博之に折角だから小トリップしてもらおうと考えて、北端の国頭、義本王の墓を見学に。ついでに奥集落まで足をのばした。午後の陽差しの中で奥は静まり返っていた。中心部アサギマーの下、前にスケッチしたことがあるヌンドゥルチのほこらではノロの如きうらない師が、何やら儀式めいた事をしていた。写真はとってはならないと言う。山道を大宜味に戻るが、意外に時間がかかってしまい、鈴木さんの帰りの飛行機に間に合うかどうかになってしまう。大宜味で別れて再び公民館へ。前の茶店でコーヒーを飲む。夕食の沖縄ソバを食べて、ＣＹ、グライターと名護のホテルに戻る。
　ワークショップはゲリラ戦か。確かに名も知れぬオジさん、オバさん、そしてドングリみたいな若い学生の混成部隊で何かをしてやろうと言うのだから、鈴木博之の指摘は的を射ているな。そろそろ戦果を得なければ、戦いにもなってないと言われるのがオチなんだが、今更引くわけにもいかんから。明日の昼に九チーム全てに的確な指示を与えなければいけない。研究室からＦＡＸが入っていて、東京もゲリラ戦だねコレワ。

三月十七日
　七時起床。同三〇分ホテル・レストラン。今朝もＣＹ・ＬＥＥ＆グライターと朝食。八時四十五分大宜味着。今日は仕事場を変えてみよう。あの公民館の吹き抜けは気持が良過ぎて、仕事には

向かない。九時李祖原講義。漢方医療の方法からの視点で生命観を述べる。本当に宇宙の律動、波動、共振現象って何だろう。宇宙と人体を同様に見たてた考えを、中国人から聞かされるとリアリティあるんだな。十一時半まで、通訳が上手だったので、皆にも少しは通じたのではないか。これ迄の李祖原のレクチャーでは最良のものであった。私も触発されて二時間半のレクチャーの最中に、沖縄大宜味村での計画のはじまりのイメージをまとめることができた。十二時過公民館で昼食。佐藤滋来。十三時内閣府岡さん来訪。十五時西岡チームから六チームの中間発表始める。西岡チームの出来は二日間の作業である事を考えれば大変良かった。他も予想より良い出来であった。ゲリラ達もやるもんだ。これならば上手に導いてゆけばなんとかモノになるかも知れない。喜ぶのはまだ早いが、失望することはない。十八時頃までクリティーク。十九時夕食後、二〇時名護のホテルに戻り、先生方でビールを一杯飲んで、部屋に帰る。ともあれ、今回のワークショップの成果は何かの形でまとめる。

三月十八日

七時起床。七時四〇分朝食。九時佐藤滋レクチャー。住民参加のまちづくり。良い講義であった。彼の論説はますます広い支持を得てゆくであろう。十一時質疑応答も含め修了。その後、少し計りオペレーション。昼食後リーダーミーティング。六名のグループリーダーとオペレーション・ミーティング。十六時前迄。公民館前の喫茶室ラダックで佐藤氏他と話したり、ぶながやの径を歩いたりで過す。千村君親子、丹羽太一ファミリー参加。障害者二名の参加でワークショップの密度は非常に深まる。おいしい地元食の夕食後、ホテルに佐藤氏と戻る。ホテルレストランで午後休息中のＣＹ・ＬＥＥ、Ｊ．グライターと再会。ビールを少々飲んで歓談。二〇時部屋に戻る。あと三日だ。何とかやろう。

三月十九日

朝七時起床。七時半レストランでいつもの通り、李、グライターと食事。九時ワークショップ会場。グライター、レクチャー。グランド・ツアーと建築。ゲーテ、ピラネージ、ル・コルビュジエ等の旅と建築の関係についての話しだった。良いレクチャーであった。グライターのレクチャーはいつも入念な準備のもとになされていて、頭が下がる。彼の考えのベースはヨーロッパの遺跡に対するヨーロッパ人のメランコリア、そしてそれを核にした思想への強い信頼感がある。十三時公民館で昼食。ラダックのコーヒーを飲んだりで、千村君丹羽君等と過ごす。十五時百二才のお婆と別の公民館で皆と会う。十八時半夕食。十九時半プレゼンテーション・チェック。二十一時半まで。参加者は良く頑張っている。ワークショップも具体的な目標が在れば、何らかの成果は上がるのだ。プロジェクトさえ立ち上がれば、良い人材を短期間有効に集める事ができるのを良く理解する事ができた。二十二時半ホテルに戻る。機械工学科の山川宏先生とロビーで会う。理工学部再編の相談。学科主任の入江先生と電話で話し、相談。二十三時半部屋に戻る。そろそろ、体力を使い果たしている状態になってきた。あと二日だ。

三月二〇日

七時起床。今朝は曇天。七時半ホテルレストランで山川先生と食事。九時山川先生レクチャー。理工学部再編の最中、沖縄で機械Ｂの先生方がどんな研究をされているのかの話しを山川先生か

らレクチャーの形でうかがえたのは大変良かった。東京に帰ったら、建築学科の先生方と機械Ｂの先生方で一度、食事の会でもしましょうと約束して、お別れした。学問領域は流動し、混合する時に本格的に新しいモノが生まれるのだから、この道はゆっくりと進めるべきだろう。十三時半、ファイナル中間講評会。明日のシンポジウム発表会のリハーサルも兼ねた。夕方、地元の青年が訪れて、話しをした。骨のある人のようだから、すぐに自宅まで連れていってもらってお茶をいただき話し合う。聞けば帯広畜産大の出身者で、私が十勝と関わりを持つ以前に十勝に居たという。色々な話しが出来て良かった。ホテルに戻り、李、グライターと遅い食事。李は台湾総統選挙でナーバスになっている。李は台湾独立派なのか、中国との融合派なのか聞きはしなかったが、彼にとってはこの総統選は大事な選挙だったらしい。リーディング・アーキテクトは国家を背負うから大変だな。

三月二十一日

八時半起床。朝食はグライターと。李祖原、昨日の台湾総統選挙の結果に考えるところあるらしく、朝食には現われず。我々日本人は誠に平和ボケ民族である。彼の政治情勢に対するシリアスな様子を見ているとそれが良くわかる。彼にとっては台湾独立派の総統が再選された事は中国本土の彼の仕事の将来にとっては極めて困難な状況になるのであろう。彼は本格的に上海に動くかも知れないな。

沖縄ワークショップはある成果を得た。

一、具体的な（リアルな）目標を与えると、このスタイルは機能できることがわかった。

二、チーム・リーダーにプロフェッショナルな人材を登用し、アマチュア（学生）を指導させることが可能な事も解った。

三、問題の現場でのワークショップは一週間程度が効果的である。

四、チーム・リーダーを信頼して、ある程度任せた方が良い。当り前の事だが、リーダーの選択に力を集中してあとは、私はブラブラしていた方が良いらしい。

以上の事を要約すれば、私のワークショップの次の段階は集団で取り組んだ方が良い現場（地域）を得れば、この方式は極めて効果的であることを知った。何はともあれ、ここでの成果は、小さな本の形式にまとめなくてはならない。

十二時過大宜味小学校。展示物のレイアウト最終チェック。十三時シンポジウム下打合わせ。十四時シンポジウム開始観客は二百五〇名程。パネリストは尚弘子、金城清両氏と我々三名。石山、李、グライター。

ワークショップの六グループ

一、ぶながやの里チームが大宜味長寿文化賞の創立と、それに伴う様々なプログラムを提案。

二、集落再生チームが、大宜味大工倶楽部設立（六十五才以上の、リタイアーした大工さんのクラブ作り）と彼等による集落の再生、及び旧役場の再利用の提案。

三、長寿の里チームは、李祖原による埋立て地への、中国大陸からの視点による提案。上海から見た沖縄の構図。李のプレゼンテーションは強烈であった。

四、シークワーサーの里チームは道の駅のシークワーサー専門店への特化の提案。

五、共同店舗チームは共同店舗の品ぞろえの健康長寿商品の特化等の提案と、共同店舗の一部を高齢者室内トレーニング場への

転用計画。
六、芭蕉布の里チームはもう一つの芭蕉布拠点作りの提案。
等、極めて具体的なプランが発表された。その提案を受け、その後の討論会では金城氏より薬草農園作りの提案などがあった。会場からの質疑も活発で、先ずは一応の成果は得られたのではあるまいか。十六時半、時間を三〇分超過して会は修了。ホッと一息ついて、喜如嘉公民館へ。おなじみになったラダックでコーヒー・ブレイク。十九時からのお別れパーティーを待つ。十九時、役所の職員が朝から浜辺で用意してくれたシャコ貝などでバーベキュー。ビールで、村長さんの音頭で乾杯。修了証を参加者全員に手渡す。十八才の沖縄の高校生から六十九才の沖縄の平和ガイドさん、チリからベルリンからの多様極まる参加者による一週間のワークショップは幕を閉じた。あとは三日後の委員会でどういう方向付けがなされるかだ。
具体的な目標のあるワークショップは有効なのを知った。これは、くどいようだが、きちんとまとめたい。

三月二十二日
六時半ホテルレストランで朝食。七時発、九時過那覇空港国際線ターミナルで台北に戻る李祖原と別れる。「シー・ユー」いつも李はさっぱりと別れるな。グライターと私は国内線。十二時〇五分の便で東京へ。今日は新潟の長岡泊りだと言う。グライターと東京駅で別れ、十六時半頃世田谷村に戻る。何はともあれ、すぐ眠る。アッという間に眠りに落ちて、明朝まで深く眠り続けた。仲々、他人には解ってもらえないだろうが、この形式での動きは私には向いているようだ。しかし、鈴木博之に言われた、これは典型的なゲリラ戦だよというのが耳に残って離れない。言われてみれば、そうなんだけれど、ゲリラ戦にしては大型な武将を隊列にそろえているんだけどなあ。年がいもなく、野戦を構えているのは確かだが、野原に居るのが好きなんだから仕方ないのだ。田舎者なんだな、どうしても。

三月二十三日
一週間振りの研究室。二十一時まで、打ち合わせとミィーティングを続ける。ここはワークショップ程うまくはいかない。何故だろうか。やはり、大学という悪場所だからなんだろうか。それとも、そんな事言ってないでもっと沢山のワークショップを構えるべきなのだろうか。

三月二十四日
一時半、ＮＨＫＴＶを深夜見る。バクダッドの栄枯盛衰に関して、勉強させられた。ＴＶのこういう番組は凄い水準になっているな。なまじな本よりも伝達力の総合性が強いと思う。